

すでにエアコン設置完了の岡田中学校特別教室



村井 慶太郎 議員



来年夏までに小中学校の全教室にエアコン設置予定。健康な状態で勉強に集中できます。

浸水被害の防止に向けた事前対策は

問 気象庁の情報から浸水のおそれのある地域は想定される。土のうの前日配布をしてはどうか。

答 和田総務課長

町としては、浸水被害の軽減を図るため、従来、住民からの土のう要請により、消防署や消防団とともに、土のうの配布を事前に行っている。

昨年の台風18号を教訓として、風水害時に円滑に土のうを配布できるように、今年度、松前消防署内へ土のう置場を設置し、常時約250袋の土のうを備蓄している。

土のうについては、可能な方ではできるだけ各自で取りに来ていただくようお願いしている。

今年の7月豪雨や台風20号の際にも、前もって

消防署へ土のうを取りに来られた方もいる。

今後、自主防災講習会などで土のうステーション(仮称)の設置と、土のう対応についてもお願いしていきたいと考えている。

以上のことから、町による前日配布は考えていない。

学校の熱中症対策として早期のエアコン設置を

問 昨今、全国的にも災害的猛暑が続いており、熱中症が増加している。子どもの命を預かる立場の学校においては、健康面からも、小中学校の普通教室にエアコンを設置するべきと考えるが、町の考えは。

答 岡本町長

今年の暑さは、命にかかわる暑さといわれ、学校の全教室にエアコンを設置する要望が、PTAをはじめ各種団体や町政懇談会の参加者から数多く寄せられていた。

町としては、児童生徒の生命・健康を守るために、できる限り早急にエアコンを設置する必要が

あると考えている。

政府は、「来年、夏に間に合うよう責任を持って学校へのクーラー設置を支援する」とのことであることから、その動向を注視しながら、今後、整備手法を検討し、来年夏までの設置を目指したいと考えている。

問 浸水被害の多い地域の消防団の分団にボートの設置をしてはどうか。

答 町としては、平成3年の台風19号を契機として、平成5年に船外機付きの小型ボート1艘(そう)を消防団に配備しており、平成24年に更新している。

なお、災害時に小型ボートが必要な消防団の分団は、いつでも使用できるよう消防署で管理している。

また、民間業者と災害時における物資供給等に関する協定により、必要な場合は、要請時点で必要な数量のゴムボートを確保することができるようになっていく。

このため、更なる小型ボートやゴムボートの配備は考えていない。